

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

320号

2017年10月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 朝米対決、対話をするか戦うか、トランプ大統領の決断しだい

朝鮮半島情勢は緊迫の度を深めている、トランプ大統領は国連演説などで朝鮮の最高指導者を愚弄する発言を繰り返し、朝鮮を「破壊」と脅した後、B1B戦略爆撃機を停戦後、最北端まで飛行させた。朝鮮の李容浩(リ・ヨンホ)外相はトランプ大統領が「暴言」を吐いた同じ壇上で、金正恩(キム・ジョンウン)委員長の言葉を引用する形で米国の統帥権者の暴言に対し「必ず代償を支払わせる」と表明して、「米国市民が生命の危機に遭う責任はトランプ大統領にある」と語った。さらに記者会見で「破壊発言を宣戦布告と受け止め、自衛のため米軍機が領空外にあっても打ち落とすことがある」と言明した。不測の事態が起きかねない状況を迎えたといえる。

1968年1月、朝鮮東岸の元山(ウォンサン)沖で情報収集中のプエブロ号を銃撃戦の末に捕し、その際兵士1名が死亡、将兵82名を捕虜とした。1969年4月、厚木基地から飛び立ったEC-121偵察機を撃墜して、31名の将兵全員が死亡した。当時朝鮮は核もミサイルも保有していないときだったが、米国は反撃を諦めた。

あまり触れたくはない話だが、現在ソウルには1千万の人が暮らしており、ソウルへの通勤圏内にある京畿道内の各都市にも同じく1千万人の市民が暮らしている。韓国の人口の約半分近くが休戦ラインから50～60キロ圏内に集中している。ミサイルでなくても通常兵器の射程圏内で日々経済活動を行っているわけだ。一旦戦争となれば、韓国国民の半分が瞬時に戦禍に巻き込まれる。文正仁(ムン・ジョンイン)統一外交安保特別補佐官が「たとえ韓米同盟が破綻しても、朝鮮半島で

の戦争はだめだ」と語る理由の一つがここにある。さらに駐韓・駐日米軍基地と米国領内の基地まで戦禍が広まり「核戦争」へと拡大すると多くの識者は指摘する。米国本土へ届かなければかまわないなどというのは、あまりにも無責任な言動だ。対話による解決と戦争の火種をなくすために平和協定の締結と駐韓米軍撤退の道しか選択肢はない。

韓国中央銀行は、昨年朝鮮は国連と米国などの独自制裁を受けながらも3.9%の経済成長率を記録したと発表した。制裁で核とミサイルを放棄させることは不可能だ。朝鮮は核と経済の併進路線を国の基本政策に据えている。核開発技術で国防を確かなものとして、余力を経済発展計画に振り向けるためにも核とミサイルの放棄はありえない。核を持った朝鮮と

共存する思考へと転換することが必要だ。今の朝鮮は昔の朝鮮ではない。9月14日、韓国の「エネルギー経済新聞」は、英国のAminex PLC社が2004年に朝鮮に石油があり、埋蔵量は40億～60億バレルだとの報告を紹介し、すでに採掘技術と装備も確保していると報じた。当然、戦略物資の備蓄は行っているだろうし、何よりも自己完結型内需発展モデルが稼動しており、制裁効果に疑問を持つ識者も多い。

トランプ大統領は朝鮮と交流を深め信頼関係を構築することで、自国の安全と市民の生命・財産の安寧を図るべきだ。李容浩外相は国連演説で「米国などによる制裁措置で被った被害を調査・集計することになる」と語っている。朝米対決の結末は、朝鮮から米国への制裁清算「請求書」送付で終わるのだろうか。(鐵)



▲戦争を防ぎ、平和を守るための宣言をする韓国民衆

## 韓青故国訪問団の成果を共有し、 祖国統一の理論と歴史を学ぶ

### 韓青故国訪問団報告会・祖国統一学習会

光復72周年記念行事に参加するため8月14日～16日まで、韓青故国訪問団がソウルを訪問し、その活動報告と成果を共有するとともに、郭東儀(カ・ドンウイ)韓統連中央本部最高顧問の著書「わが祖国統一論」をもとに、祖国統一の理論と歴史を学ぶため「光復72周年韓青故国訪問団報告会・祖国統一学習会」が9月10日(日)、大阪産業創造館(大阪市中央区)で開かれた。

報告会では、李俊一(イ・チュニル)韓青中央本部副委員長が動画やスライドを活用しながら、活動を報告するとともに、今回の訪問団の成果として△長期にわたる弾圧にも屈せず、正々堂々と韓青の旗を掲げて入国し、△各種行事への参加と発言を通じ、民族自主と平和統一の訴え、△国内青年団体との直接的な連帯・同志関係を再構築できたことなどが語られ、拍手で訪問団の成果を確認した。

そして、韓成祐(ハン・ソウウ)韓青京都本部委員長が訪問団に参加した感想が語られ、報告会は終了した。



▲祖国統一学習会で講演する朴明哲宣伝局長

続いて祖国統一学習会が開かれた。学習会では朴明哲(パク・ミンチョル)韓統連中央本部宣伝局長が講師を担い、「わが祖国統一論」で指摘・解説している統一の目的、祖国統一の基本原則などについて講演を受け、質疑討論をするとともに、統一運動の歴史では第1回汎民族大会、汎青学連結成に参加した幹部からエピソードが語られるなど、70年代から90年代の統一運動の歴史について学び、学習会は終了した。

## 日朝ピョンヤン宣言の履行を通じ、 早期の日朝国交正常化を 日朝ピョンヤン宣言15周年集会

「日朝ピョンヤン宣言」発表から15周年を迎え、日朝国交正常化の早期実現を求める市民連帯・大阪(日朝市民連帯・大阪)主催で、「ピョンヤン宣言から15年 日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会」が9月15日(金)、エルおおさか(大阪市中央区)で開かれた。

集会では、日朝市民連帯・大阪共同代表の大野進さんが主催者挨拶を行った後、「最近の朝鮮半島情勢と日朝関係の展望」をテーマに、韓国問題研究所所長の康宗憲(カン・ジョンホン)さんが講演を行った。



▲朝鮮半島情勢について講演する康宗憲さん

康氏は講演の中で、軍事的緊張が高まる朝米関係について「過去、北朝鮮は何度も米国に対話を提案してきたにもかかわらず、米国が無視し続けてきたために、北朝鮮は核保有・ミサイル開発を進めた」と指摘し、「現在、米国国内では北朝鮮の核保有を容認して、核・ミサイルの現状凍結を目標に対話をすべきだという論調がある。トランプ政権は軍事挑発を止めて、対話へと態度を変化させなければならない」と主張した。

そして康氏は日朝国交正常化の実現に向けて、「安倍首相は米国に同調して北朝鮮への制裁強化を言っているが、日本も北朝鮮との対話を再開させ、日朝ピョンヤン宣言の履行を通じ、国交正常化へと進むよう、私たちが訴えていこう」と訴えた。その後集会では、安倍首相に送る要請文が朗読・採択され、最後に日朝市民連帯・大阪共同代表の長崎由美子さんが閉会挨拶を行い、終了した。

## ペ・ポンギハルモニの半生を振り返り、 従軍「慰安婦」問題を学ぶ 韓統連生野支部定例学習会

韓統連生野支部定例学習会「人物に見るウリ歴史学習会 第5回 沖縄ハルモニ(おばあさん)ペ・ポンギ～元従軍「慰安婦」が生きた解放前後史～」が9月24日(日)、生野支部事務所で開催された。今回は参加者の状況を考慮して、初めて午前と午後の2回開催とした。

学習会では、金昌範(キム・チャンボム)生野支部代表委員が講師を担い、解放後も沖縄に在住したペ・ポンギハルモニの半生を振り返りながら、日帝植民地下、とりわけ1943年～44年頃、雇用を名目に騙されて連れて来られた従軍「慰安婦」の実態を学ぶとともに、日本の報道番組の映像資料も見ながら、ペ・ポンギハルモニが在留資格をめぐる祖国への強制送還が危惧されたことで

問題が発覚し、世の中に広く伝わるようになった。

ペ・ポンギハルモニに関しては、70年代後半から80年代にかけて、作家の川田氏などによって粘り強い聞き取りなどの実態把握が行われ、当時の状況が明らかにされていった。

ペ・ポンギハルモニは1991年10月に他界したが、本人と周囲の人たちの踏ん張りが力となり、90年代以降の従軍「慰安婦」問題の解決に向けた運動が国内外に大きく広がっていったことが報告され、ハルモニが語った「統一した祖国に帰り、日本政府に賠償してほしい」という言葉が印象的であり、従軍「慰安婦」問題の本質がそこにあるのがうかがえた。

次回の第6回は10月15日「80年光州の市民たち～血で示した民主主義、統一～」の題目で行います。ぜひご参加ください。

## 〈次代を担う若者たち〉 —韓青大阪本部 活動紹介—

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュル)です。だいぶ涼しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

韓青大阪本部では、この間も精力的に活動してきました。8月25日～27日には関西地協で「西日本サマーキャンプ」を兵庫県の猪名川町という場所で開催しました。自然豊かな所で、川遊びをしたり、キャンプファイヤーをしたりと夏を満喫しました。

講演では「本名(民族名)について」と「祖国統一と私たち」といった2つのテーマで講演をそれぞれ行い、その後の班別討論へとつなげていきました。在日同胞と民族、祖国はどう関係しており、どのように向き合っていけばよいのかなど活発に討論されたと思います。最終日のバーベキューでは、生野の肉屋さんで購入したホルモンが大好評。韓統連大阪本部からもカンパを頂き、美味しいビールを楽しむことができました。カムサハムニダ(感謝します)。

韓青大阪本部はサマーキャンプでサムルノリを披露しました。当日の発表もうまくいきましたが、なにより良かったのが、練習過程で韓青大阪本部の中で民族楽器熱が高まったことです。今回のサムルノリ発表を契機に民族文化サークルを再開することになりました。10月は10・4宣言10周年の節目の月です。すでに3ヶ所の記念行事への参加が決定していますが、大阪の地で少しでも統一気運を高めるために頑張っていきたいと思います。



▲サムルノリを発表する韓青大阪本部のメンバー

## 【投稿】 個人請求権は消滅していない—日韓条約解決済み論のごまかし 日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

現在、韓日間で問題となっています個人請求権の問題について、日本製鉄元徴用工裁判を支援する会の中田光信さんを書いて頂きましたので、掲載します。

文在寅大統領は今年、光復節の演説で「日本軍慰安婦と強制徴用など韓日間の歴史問題の解決には、人類の普遍的価値と国民的合意に基づく被害者の名誉回復と補償、真実究明と再発防止の約束という国際社会の原則があります。わが国政府は、この原則を必ず守るでしょう。日本の指導者の勇気ある姿勢が必要です」と述べた。また、その後の記者会見で「両国間の合意があろうとも、徴用者、徴用された強制徴用者個人が、三菱をはじめ相手会社に対して持つ民事上の権利は、そのまま残っているということが韓国の憲法裁判所や大法院の判例である」として、「政府はそのような立場で過去の問題に臨んでいる」とした。

この発言に対して日本政府はもちろん日本のメディアも「歴史再燃防ぐ努力こそ」（朝日新聞）「外交の根幹を崩すな」（東京新聞）、「文大統領の光復節演説 慎重さ欠く『徴用工』言及」（毎日新聞）など一斉に批判した。かつて日本のマスコミは、2012年5月に大法院が元徴用工被害者が新日鐵住金と三菱重工を訴えた裁判において韓国併合以降の植民地支配自体が「不法・無効」であり「植民地支配に直結した不法行為」についての損害賠償請求権は消滅していないと判決した時にも「ちゃぶ台返し」と報じた。しかし、日本政府も1992年の柳井条約局長（当時）の国会答弁以来一貫して、日韓条約締結によって「消滅」したのは個人の請求権ではなく外交保護権であるとこれまで繰り返し説明してきた経過がある。

一方、韓国政府は盧武鉉（ノムヒョン）政権時の2005年に開催された「韓日会談文書公開 後続対策関連民官共同委員会」で、「韓日請求権協定は基本的に日本の植民地支配賠償を請求するため

のものではなく、サンフランシスコ条約第4条に基づく韓日両国間の財政的・民事的債権債務関係を解決するためのもので、日本軍慰安婦問題等、日本政府・軍等の国家権力が関与した反人道的不法行為については、請求権協定により解決されたものとみることはできず、日本政府の法的責任が残っている」との見解を示し、植民地支配下の「反人道的不法行為」については解決されていないとしている。ここに明らかなように、日本政府がいう「日韓条約解決済み論」は、あくまでも外交保護権の放棄＝「政治的解決済み論」であり、元「慰安婦」の人たちや強制連行被害者が人としての尊厳をかけて求めている謝罪や補償を妨げる「法的」な障害はないのである。

今年6月に韓国国会に議員立法で「日帝強制動員被害者人権財団の設立に関する法律」案が上程された。

この法案は「植民地支配の下、アジア太平洋戦争当時の韓国人の人権侵害が充分回復しないまま放置されていて、韓国と日本の未来のために必ず解決されるべき時代状況の中で、韓日両国政府と強制動員責任企業、対日請求権資金受惠企業等の出損金、寄付金及び信託金等を通じて、その生活を支援することで、これらの苦痛を治癒して、韓日間の平和と人権の伸長に寄与することを目的」としており、2015年末に解散した「対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」を引き継ぐものである。

文在寅大統領が述べた人類の普遍的価値に基づく被害者の名誉回復と補償、真実究明と再発防止の約束という国際社会の原則に則った解決への道は、すでに提示されているのである。



▲5月30日、韓国国会図書館で開催された2012年の大法院判決の早期確定を求める市民集会

## 【コラム】

韓国<sup>1</sup>の龍

韓国を象徴する動物は「虎」である。一方で、そのライバルと目される「龍」は韓国にとって若干縁遠い印象がある。しかしながら我が国は三方を海に囲まれる半島であり、龍は古くから水神として説話や民話で語られる存在でもある。各地の湖沼、滝、淵、大川、大海には龍の伝説が多く残されており、龍神信仰も根強い。そんな韓国の龍について少しだけ見てみたい。

龍は想像上の動物であり、世界各地の伝説や物語に類似する観念が見いだせる特異な存在だ。東アジアでは古代中国思想の影響のもと、神獣として扱われてきており、韓国においても古くから龍を畏れるべき存在、そして権威の象徴として考えてきた。

「龍」という漢字にはいくつかの意味があるが、我が国において「ヨン／リョン、ヨ／ヨ」<sup>2</sup>と読む場合、神獣としての龍を

指す。古代中国の字典「説文解字」では龍についてこのように述べる。「龍は鱗虫の長である。暗い所にもおり、明るい所にもおり、細くもなり、大きくもなり、短くもなり、長くもなる。春分には天に登り、秋分には淵に潜む」。中国の伝説上の龍は、うろこのある動物の長であり、形を捉えがたい「雨」や「水」の象徴だとされる。これは中国思想を受容した我が国にも共通するイメージだ。

かたや韓国語で龍を指す固有語は「ミル(미르)」。「水」を意味する古語「ムル(물)」に関連する言葉であり、これは龍が水神であることに由来していると考えられている。

またこの「ミル」は「あらかじめ」を意味する「ミリ(미리)」との共通性が丁若鏞の「雅言覺非(아언각비)」で指摘されている。この書で丁

若鏞は世間の誤用<sup>3</sup>と思われる言葉を列挙し、その語源と本来の意味を文献から引いて指摘したが、龍について「龍とよんで、豫となす」と、「ミリ」が「龍」であると同時に「あらかじめ」を意味する言葉として使われていると述べている。これは龍が説話において未来を指し示す存在であるためだと思われる。

韓国の龍は未来を予言する獣だ。「高麗史」には、高麗太祖の祖父である作帝権は西海龍王からこのような予言を受けたと記されている。「東の地の王になるためには、そなたの子孫である三人

目の建を待たなければならぬ」。その後、作帝権は龍王の娘を娶り、作帝権・龍建・王建と代を継ぎ高麗が建国されたという伝説がある。

夢で未来を占うにあたっては「龍

夢(몽꿈)」は富貴榮達、大人物誕生

の前兆として尊ばれる。龍が昇天する夢は出世、龍が空で鳴く夢は世間で名声を得る吉祥とされる。龍が空から落ちる夢はさすがに不吉な夢とされるが、ライバルが没落する夢とも解釈できるという。有名な義賊小説「洪吉童伝(홍길동전)」では主人公の父である洪宰相が「突然、雷が鳴り響き、青龍がヒゲを逆立てて走り寄る夢」を見た後、侍婢との間に生まれた子が洪吉童だったとする。

このような龍への民間信仰は、今日もなお根強い。巫堂(ムダン、무당)の行うクッ(굿)において、龍王クッは重要なものの一つで村の安寧、海上安全、豊漁、祈雨などを祈願する伝統文化として残っている。また龍夢を見ると宝くじが当たるという迷信も広く流布している。龍は形を変えつつ韓国人の心の中に生き続けているようだ。

(好)



▲慶福宮思政殿御座「双龍図」

## ◆◆お店紹介◆◆

## 居酒屋「一休」

先月号でお店紹介をしたところ、読者の皆さんに好評でしたので、今号も引き続きお店紹介をします。今回紹介するのは、夫義澤(フ・ウイテク)韓統連大阪本部監査のお店、居酒屋「一休」です。

先月号で紹介しました「多味」は昨年6月にオープンしましたが、こちらの「一休」は1969年11月、某居酒屋チェーンの系列店として夫監査のアボジ(父親)がお店を開き、名称は変わりましたが、場所は現在も天下茶屋駅前商店街の中にある老舗中の老舗。

2代目となる夫監査はお店の名前を「一休」とした理由を「毎日、忙しい日々をおくっているサラリーマンの方々などに一休みして飲んで、食べてほしいという思いから」と語ってくれました。その思いはお店の中に「ほっとして行って

ください」と書かれたタペストリーに象徴されています。

そうしたお店は、1960年代～70年代の名曲が有線で流れるとてもレトロな雰囲気、料理もから揚げ・おでん・刺身盛り・どて焼きなど庶民的な料理が多数あり、事前に予約すれば、よせ鍋などの鍋料理も準備できます。

最後に夫監査から「今号のチャジュ(自主)をお店に持って来られた方限定で、生ビール一杯無料にします」という言葉を頂きました。皆さんぜひ一度、

「一休」に足を運んでください。

住所：大阪市西成区天下茶屋3-22-17(南海・地下鉄 天下茶屋駅下車徒歩5分) / 営業時間：午後5時～午後11時 / TEL：06-6652-0127 / 定休日：日曜・祭日



▲一休はご夫婦で営んでいます

## ◆◆行事案内◆◆

### 2017年戦争あかん！基地いらん！ 関西のつどい

日時：10月21日(土) 午後1時30分 開場  
午後2時 開会

場所：エルおおさか2階・エルシアター  
(京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分)

内容：講演① 山城博治さん  
(沖縄平和運動センター議長)  
講演② 斎藤貴男さん(ジャーナリスト)

資料代：500円 大学生：300円  
高校生以下無料

主催：同実行委員会 / 大阪平和人権センター 他  
TEL：06-6364-0123

### 2017年秋季野遊会

～みんなでバーベキューを楽しもう～

日時：10月29日(日) 午前11時～  
場所：久宝寺緑地公園北地区ファミリー広場  
(近鉄線“久宝寺口”駅下車徒歩15分)

参加費：大人2000円 / 中・高生1000円  
小学生以下は無料

※ビールは当日販売 お茶は無料

※おにぎりなどは各自で持参ください

※目印として黄色いのぼりを立てます。

※雨天中止の判断は、前日午前11時の天気予報を確認して判断します。問合せは 090-3822-5723(崔)まで連絡ください。

主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377

### 編集後記

今号で紹介しました居酒屋「一休」、本当に庶民的なお店です。これからはおでんの季節、「一休」のおでん美味しいですよ。一度食べに行ってください。温まりますよ。(ソソ)